

文化・芸術

「アネモネ」

1928年、油彩、カンバス
54.8cm×46.0cm

(神崎眞子氏、板倉剛氏寄贈)

板倉 鼎 (1901～29年)

板倉鼎(埼玉県吉川市生まれ、千葉県松戸市育ち)は、東京美術学校西洋画科を卒業後、フランス・パリに留学しましたが、若くして敗血症のため亡くなりました。同時期のパリには、美術学校同期の岡鹿之助(1898～1978年)などもいて、画友たちの世話で、その作品は日本に持ち帰られました。

画家の遺族は現在まで大切に作品を保存され、展覧会での紹介をはじめ、留学中家族に宛てた膨大な書簡をまとめた「書簡集」なども刊行され、近年再評価されています。

大川美術館は、エコール・ド・パリの画家たち、ならびにパリで学んだ日本人画家の作品を多数収蔵していることから、今年度で遺族から作品10点(油彩画6点、素描4点)と資料を寄贈されました。その中の一点ですが、あざやかな青いつぼに生けられたアネモネを描いた画面からは、どこか寂しげな、かれんな詩情が伝わってきます。

(田中)

名画の扉

大川美術館新収蔵作品から

